

イワシ類シラスの漁場形成に関する研究

(水産資源調査・評価推進委託事業)

(予算区分 外部資金 研究期間 1995 年度～)

担当：水産・海洋技術研究所資源海洋科 竹本紘基

【研究の背景とねらい】

- ・ 静岡県イワシ類シラスの年間水揚金額は 25 億円を超える重要な魚種の一つです。
- ・ シラスの漁場形成要因を解明するために、水揚統計資料の収集や太平洋沿岸の卵稚仔の分布、海況変動等を把握することで、シラス漁況の変動特性を検討しました。

【これまでに得られた成果】

(2025 年度の状況)

- ・ 2025 年度漁期 (2025 年 3 月～2026 年 1 月) の主要 6 港 (用宗、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居) における総水揚量は 3,060 トンで、前年 (2,096 トン) の 1.5 倍、過去 5 年平均 (以下、平年) (3,832 トン) の 80% となり、1975 年以降 4 番目に少ない水揚量でした (図 1)。
- ・ 3 月から 5 月は前年、平年を下回る水揚げでしたが、6 月、8 月は前年を上回り平年を下回る水揚げとなり、7 月は前年を上回り平年並の水揚げでした。9 月～11 月、1 月は前年、平年を上回る水揚げとなり、1 月 14 日に漁期が終了しました。
- ・ 魚種別の漁況は、カタクチイワシのシラスが漁期を通じて漁獲され、10 月に最も水揚量が多くなりました。マイワシのシラスは 3～4、1 月に漁獲され、4 月に最も水揚量が多くなりました。ウルメイワシのシラスは 3～4 月、1 月に漁獲され、1 月に最も水揚量が多くなりました (図 3)。
- ・ シラス漁況の予測を行うとともに、調査船により漁場加入前の卵稚仔の分布状況を調査し、これらの結果を漁業者や加工業者に情報提供しました (しらす情報 17 回、会議研修 9 回)。

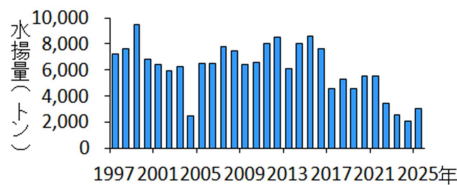


図 1 県内主要 6 港における漁期年別水揚量

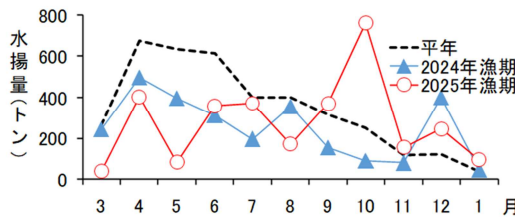


図 2 県内主要 6 港における月別水揚量の推移

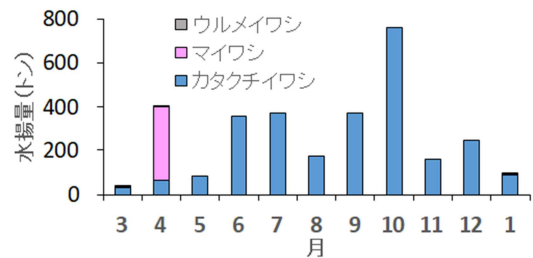


図 3 県内主要 6 港における月別魚種別水揚量の推移

【期待される成果】

- ・ シラス漁場形成の要因が解明され、高精度の漁況予測が可能になります。これによりシラス漁業者は計画的な操業が、シラス加工業者は計画的な出荷が可能となります。

【今後の計画】

- ・ シラス漁況と卵稚仔の分布、海況変動等との関係を明らかにし、シラス漁況の高精度の予測手法を確立します。また、卵稚仔の分布状況を引き続き情報提供を行います。

(作成 2026 年 4 月)